第7回起草会合議事概要メモ

日 時：平成17年12月12日（月）13：00～16：30

場 所：食品安全委員会小会議室

出席者：牛島専門委員、春日専門委員、関崎専門委員、國枝課長、梅田課長補佐、川本係長、米井係員

議事概要

1. 起草作業の進捗状況の確認
2. 評価指針案の精査

主な議論

用語の定義について

- ・春日委員より作業の進捗状況についての説明と確認があり、起草案をもとに内容の精査を行った。
- ・起草案の用語は出来る限り日本語にするべきとの提案があり、和訳を作成することに全員が合意。
- ・直訳ではなく内容に則した和訳を作成すべきとの意見があり、起草案の用語について、英単語の意味に捉われることなく和訳を行い、次回専門調査会に提案することとなった。これらの用語については、状況に応じて適宜見直しをすることも明記することとなった。また、引用した場合には、出典を脚注に記すこととされた。

Hazard Identification：ハザードに関連する情報整理

Exposure assessment：暴露評価

Hazard characterization：ハザードによる健康被害の解析

Risk characterization：リスクの特性解析

Risk assessment policy：リスク評価方針

Risk profile：リスクプロファイル

ALOP：適正な衛生健康保護水準

FSO：摂食時安全目標値

- ・評価指針における「リスク評価」と「食品健康影響評価」の使用について整理した方がよいのではないかとされ、「食品健康影響評価」は行政用語として使用し、その他については既に定着している「リスク評価」という言葉を使用し整理することとされた。

優先順位付けについて

- ・評価案件の優先順位付けの方法について具体的な記載がなく、評価案件の選定の流れについても不自然な箇所があるため、見直しの必要性について提

案があり、整理することとなった。

- ・2.1問題の探知と認識：2.3.1に整理していた情報をここで整理することとし、必要な情報の種類と重み付けを明確にする。また、食品安全委員会としては、「食品貿易上の問題」について考慮することは適切でないと判断し、本項目について削除することとした
- ・2.2リスクプロファイルの作成：2.1で収集した情報をもとに、必要な情報についてまとめる。
- ・2.3評価案件の優先順位付け：2.1、2.2の作業の中で整理されてきたことを精査し、さらに可能であれば予備的な（おおまかな）リスク評価を行うことで、優先順位を確定する。情報が入手可能であるか（評価の実行が可能か否か）も考慮した上で判断する。
- ・2.4評価案件の決定：優先順位の高いものから評価案件として決定するとともに、リスク評価の目的、範囲等を明確にする。

リスク評価の手順について

・3.1評価の構成要素と実施手順について、簡単な流れを図1として示した上で、3.1.5実施手順の詳細を図2として改めて示すことになった。また、本起草会合において春日委員より提出された図を、図3として併せて示すこととなった。

次回専門調査会について

・可能な限り、評価指針の本文をとりまとめ、食品安全委員会へ報告すること及び今後、評価案件を選定する作業を進めることについて合意することを目指す。また、付属文書の作成を引き続き行うことについて、座長に言及、再確認していただくこととする。

その他の議論

- ・1.2ハザードによる健康被害の解析：「摂食」「摂取」に変更。
- ・2.1：使用するデータの中に、他機関のリスクプロファイル、疫学研究、予備的リスク評価が含まれることを明記。
- ・2.2：「海外のリスク評価事例」を追加。
- ・2.5.1：「質問事項」を削除。（「求められた食品健康影響評価」に含まれるため。）
- ・3.1.2：「汚染率」が、汚染確率と汚染水準の概念を示すことを明記する。
- ・3.1.5：「評価モデル(案)の相関付け」の前に、「評価の形式を決定し」を挿入。
- ・3.1.5：「食品健康影響評価の流れ」を削除。
- ・3.1.7：原則として4つの手順を踏むが、時間的制約がある、意見のみを求

められている、法律の整合性に係る審議である、既に十分な検討が行われている等の状況にある場合、評価の簡略化が可能であることを明記する。

・3.5.1：「適正な衛生健康保護水準」の後に、「摂食時安全目標値」を挿入。

・微生物・ウイルス専門調査会における審議の目的と方向性について明確に記載すべきではないか。

・近日中に事務局で案を作成し、起草委員の合意を得た上で次回調査会の資料とすることとなった。

以上